

人間活動が消えた地域の野生動物の現状

江成 広斗 山形大学

話題概要

- 1) 野生動物「問題」の整理
- 2) 人口減少時代に適合した野生動物管理形成への課題



図. 人口減少時代における野生動物管理に資するプラットフォーム運営

Q. 農業被害は増加しているか ⇒ A. 増加は一部地域

農業被害額の推移

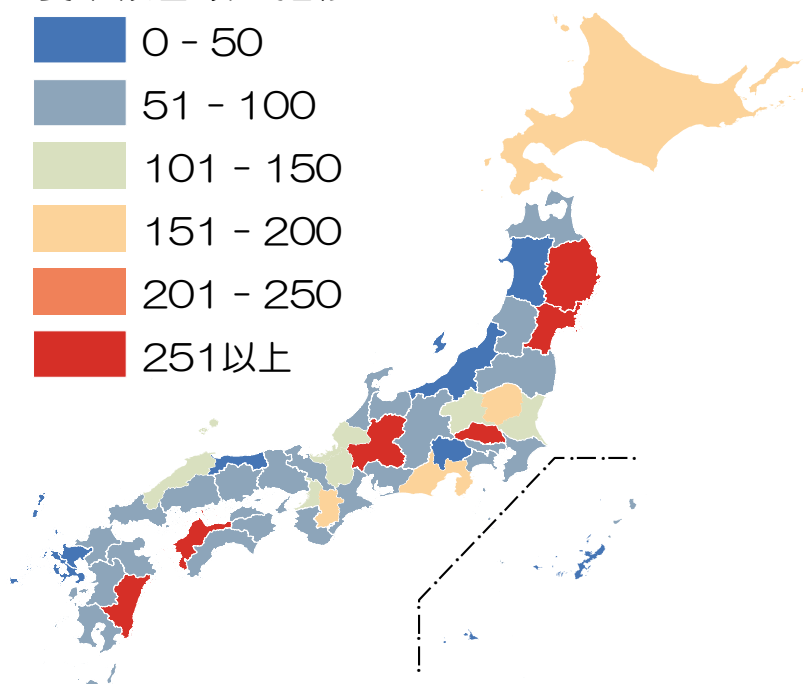
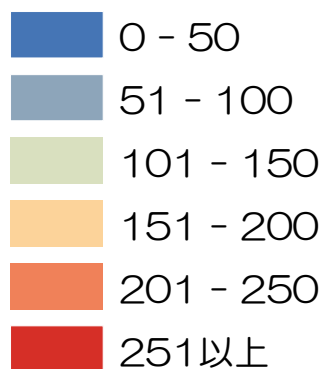
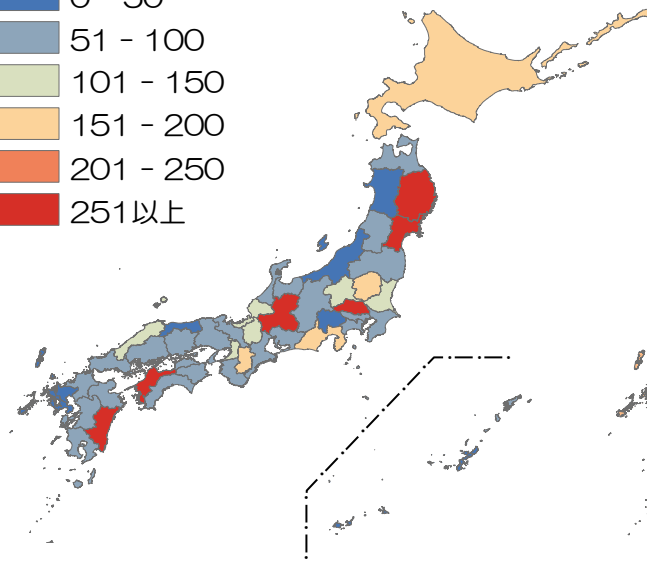
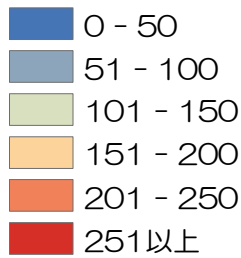


図. 過去10年間の鳥獣による農業被害額の推移
(2005年を100とした場合の2015年の値。被害額は農林水産省公表値)

農業被害減少の要因：離農と対策効果

(A) 農業被害額推移



(B) 農業経営体数推移

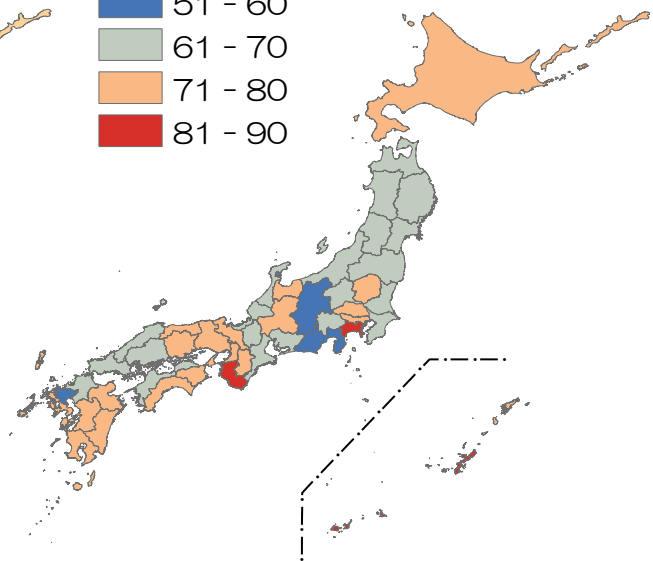
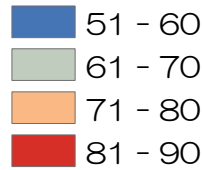


図. (A) 農業被害額の推移と(B) 同時期の農業経営体数の推移（2005年を100とした場合の2015年の値）比較。経営体数は農林業センサスに基づく

両者の実数値の相関($r = 0.03$, $P < 0.01$) ⇒ 対策効果も期待可能

野生動物「問題」とは何か

たとえ被害が減少したとしても、問題が解決に向かっているという確かな実感が得られにくい

✓ そもそも問題とは何なのか？

科学

✓ 何をもって解決と考えるべき？

価値

人口減少の実態

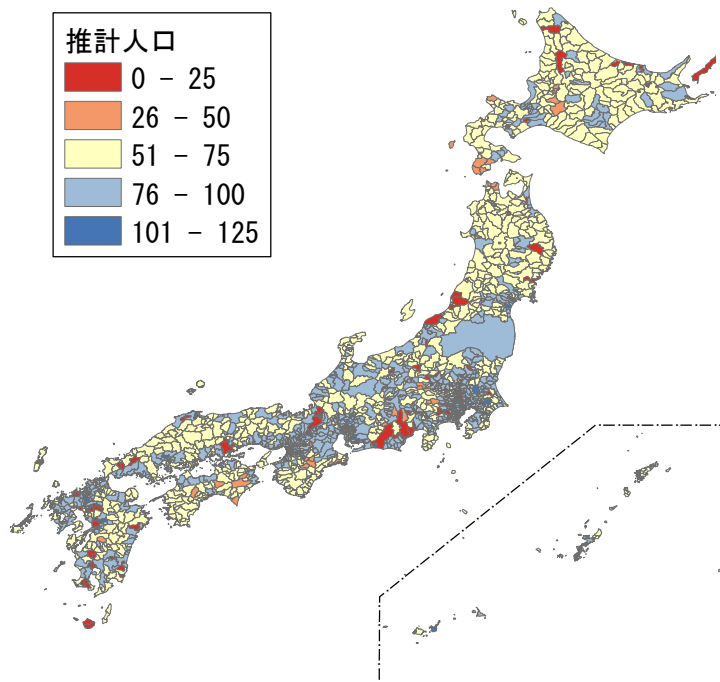


図. 2015年人口を100とした**2040年の推計人口**
(国立社会保障・人口問題研究所より作成)

地域別人口減少率
～ワースト10～

県名	年人口減少率
1 秋田	6.4
2 青森	5.3
3 高知	5.1
4 山形	4.4
5 和歌山	4.4
6 徳島	4.2
7 福島	4.1
8 長崎	3.9
9 鹿児島	3.8
10 岩手	3.7

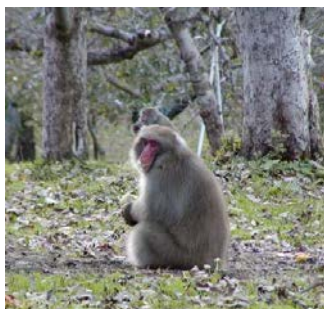
※2012～2017年にかけての減少率

東北では今何が起きているのか？

段階① **人の空洞化**（人口の社会減・自然減）

⇒大型獣による集落への**近接化の引き金**

基礎的対策（侵入防止柵等）の導入や対策の省力化によって、**技術的に対応可能な段階**



空洞化の連鎖については：小田切（2009）農山村再生. 岩波書店

⑦

東北では今何が起きているのか？

段階② 土地の空洞化（農林地荒廃、空家増加）

⇒侵入行動に対する**心理的障壁の低下**
 集落内に**隠れ場**の増加



写真：崩壊する電気柵、隠れ場になる空き家

⑧

東北では今何が起きているのか？

段階③ むらの空洞化（集落機能の脆弱化）

対策の基本となる自助・互助・共助が機能不全になり、
公助（行政支援）だけが先行



図. 警報システム



図. 囲い罫

東北では今何が起きているのか？

段階④ 誇りの空洞化（居住継続意志の弱化）

その地で生活や生業を続ける意思が弱体化し、
公助により進められる鳥獣対策に疲弊する住民

⇒ 困難な合意形成、目標の不透明化



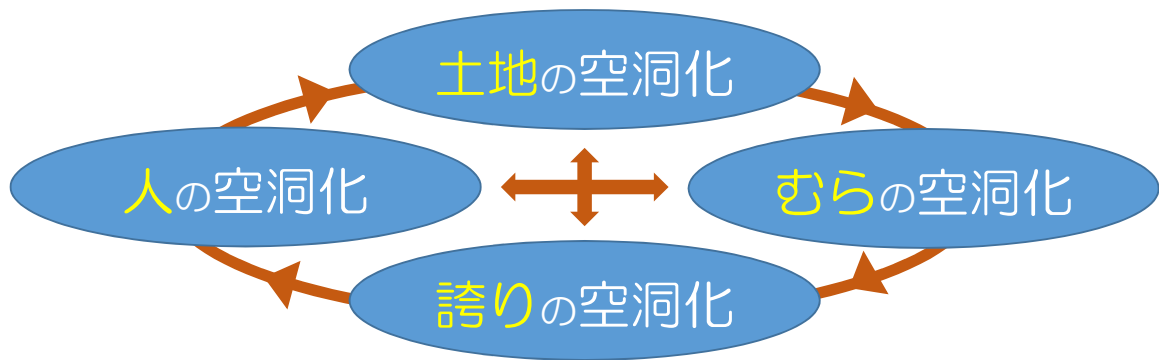
野生動物「問題」の本質

野生動物問題とは人口問題であり、
問題の本質は
「未来を考える力」の脆弱化

- ✓ 単に公論形成の場（＝利害関係者が集まる寄り合い）
を用意しても機能しない
- ✓ 人口減少社会という現実を直視しない対症療法
では「未来を考える力」は生まれない

⑪

「空洞化の連鎖」に対処する有効な処方箋とは？



有効な処方箋は？

低コスト技術（ICT）

担い手育成事業

公助拡大

合意形成支援

人口還流促進

ジビエ活用

農地団地化

都市農村交流



⑫

人口減少時代に適応した国土利用再編

【連携中枢都市圏構想】

中核都市と近隣自治体との間で、都市機能の集約とネットワーク化を進める（H30.4時点で28都市圏が形成済み）

キーワード＝広域連携と集約化

人口減少に対応するための野生動物管理の課題

- ① 動物不在の時代に作られた**土地利用の再編**
- ② 山林における野生動物管理（シカ管理）の**選択と集中**
- ③ リスク軽減のための**跡地管理**の検討（再野生化を含む）
- ④ 解決へのイメージを創出し共有するための**誇りの再建**